平和を受け継ぐ

那覇市立識名小学校六年　禰覇　柚希

みなさんは、「平和」という言葉をきいてどういうことを考えますか。「幸せな世界」や「トラブルのない世界」などと考える人が多いと思います。

私が考える平和とは、「大切な人と笑って過ごせる世界」だと思います。沖縄は、七十六年前、大切な家族や友人と幸せに暮らせる状況ではありませんでした。それは、戦争というおそろしい出来事のせいで、毎日生きることとさえむずかしく、大切な人を失うという悲しい気持ちで暮らしている人がたくさんいたからです。

私は、五年生のとき、平和学習で、戦争を体験した祖父に話をきいてみました。祖父は、戦争のとき命を守るために歩いてにげ続けたそうです。にげていた足場には、亡くなって、い体となった人たちが、たくさん倒れていたそうです。その上をふんでにげていたと、聞いて私は、戦争のこわさに改めて気づきました。

戦争では、同じ日本人同士でありながら日本兵がガマを占きょするため、住民を殺したり、ガマから出されて居場所がなくなった住民が、殺されるより自分で死んだ方がいいと、集団自決する人もたくさんいたそうです。

また、にげきれずに、亡くなったり、方言で話していたら日本兵にスパイだとかんちがいされ、殺される人も多くいたと言っていました。その人たちを思うと、戦争は、どんなにこわくて、悲しかったかと涙が出ます。もう絶対にやってはいけないと強く感じました。

私の祖父は、「この戦争というおそろしいものを、一生おこさず、平和というものを大切に生きてほしい。」と真剣な目で私に語りました。

私は、祖父の話をきいて、戦争のこわさを感じるだけでなく、今の平和な世の中がどれだけ幸せなことかを改めて感じました。

この平和の大切さを次の世代、またその次の世代へつないでいきたいと思いました。

そのために、今の私たちができることは、友だちと仲良くすること、色々なことを一生けん命勉強すること、友だちと協力すること、毎日感謝の気持ちを忘れないこと、相手に気持ちを伝えること、相手の気持ちを聞くこと、相手の気持ちを考えることなどがあると思います。一人一人ができることを取り組んで、大切な人と笑って過ごせる毎日を作りたいです。それが、戦争で亡くなったり、戦争で悲しい思いをした人々の悲しみを少しでもへらしていくことにつながると思います。

また、戦争体験者が高齢化したり亡くなったりして、戦争の話を聞ける機会が少なくなっています。私たちが、戦争について学んだことや、聞いたことを忘れずに心に残していくことも大切なことだと思います。

私は、祖父や、悲しい思いをした人々のためにも戦争のおそろしさを忘れず、いつまでも平和にくらしていけるように自分に出来ることを考え、行動していこうと心にちかいました。